

64本の矢と730万人のエネルギー

明けておめでとうございます。

昨年は、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでの本県ゆかりの選手の活躍に大きな感動と勇気をいただきました。

2019年にはラグビーワールドカップ大会が、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが本県でも開催されます。両大会がすばらしい大会になるように、しっかりと準備を整えてまいります。

さて、圏央道や新幹線網の充実などにより、今、埼玉県には勢いがあります。

企業本社の転入超過数は2015年までの10年間で927社と全国1位、2003年から2013年までの県内総生産の増加額および全国シェアの増加ポイントは全国2位となっています。

しかし、今後は急激な高齢化や生産年齢人口の減少による社会活力の低下など、今まで経験したことのない局面を迎えます。

誰もが将来に希望を持ち、生き生きと活躍できる社会を築くため、さらに知恵を絞り工夫をしなくてはなりません。

埼玉県は、生活保護世帯の子供の学習支援や糖尿病重症化予防対策など、本質を突いた

施策の展開で国を動かしてきました。

工夫できることは、まだまだあります。

生産年齢人口が減少する中では、社会の担い手としてシニアや女性の社会参画が大変重要です。



元氣な高齢者が社会の担い手として活躍することを目指す「シニア革命」も本格化しています。また、シニア革命を支える「健康長寿埼玉プロジェクト」も全県で展開しているところです。

女性の社会参画を進める「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」は、全国に知られてきました。

さらに、マグネシウム蓄電池など、その成果が出つつある「先端産業創造プロジェクト」も力強く進めていきます。さまざまな機関との連携を深化させ、実用化、製品化開発を促進していきます。

今年は特に少子化対策にも力を入れて取り組みます。出生率の低下は日本の将来に関わる問題です。

昨年、少子化に歯止めをかけるために県と市町村で連携して何ができるか、首長の皆さんとも徹底して意見交換を進めてきました。

日本の再生を先導する県の1本の矢に、63本の市町村の矢を加えた64本の矢になれば、より大きな力になります。

日本は今、さまざまな課題を抱えています。しかし、課題のなかった時代はありません。先人たちは困難な課題を英知と人の力で克服してきました。

私たち64本の矢どころか730万人のエネルギーを結集し、課題解決の枠組みをつくっていきましょう。

今年もよろしくお願い申し上げます。

埼玉県知事 上田 清司